



茨城大学図書館報

THE IBARAKI UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

(タイトル『ヴェリタス・リベラート』は、
〈真理がわれらを自由にする〉というラテン語)

No.15 2006年3月

目次

- | | | | |
|--------------------|---|-----------------------|----|
| ●自動化書庫 | 1 | ●韓国・忠北大学校図書館を訪問して ... | 8 |
| ●新入生のための | | ●図書館だより | 10 |
| 茨城大学図書館入門 | 3 | ●2005年の記録 | 12 |
| ●第91回全国図書館大会 | 6 | | |

自動化書庫

図書館長 小杉山 基 昭

図書館の書籍管理に二種ある。人に管理させる方法と機械に管理させる方法である。

ライブラリアン(司書)の夢を素人の私が想像すると次のようなことになる。

大きな部屋、それも無限の広さをもった部屋に、書架がびっしりと立ち並んでいる。そこに書籍がつまっている。読者は自由にその部屋に入って、気に入った本を選ぶ。

書店はこのかたちである。読みたい人が読みたい本のところまで歩いて行ってそれを選ぶ。人に管理させる方法である。買うつもりで本を取り出しそれを買った場合は、書店が本の補充などの処理をする。本が買われなければその場で元の場所に戻される。

図書館では、選んだ本はふつう別の場所で読む。読んだ本人は、返すときには取り出したときの記憶が薄れているはずで、元の場所

に戻すのはライブラリアンの仕事である。本には元の場所に返却できるように、個体識別番号が与えられている。

私は、司書ではないから、「自分で取り出したんだから自分で元の場所に戻してよ」と言いたくなるが、そうではない。そんなことをしたら、どこに戻るか分からない。ひとたび別の場所にしまい込まれた本は、よほどの僥倖でもないかぎり二度と探し出せなくなる。

司書について、『ジルと心のヤドリギ』というブログに見られた言葉を紹介する。

「司書は学者、現代の日本なら利用者の補佐で主役じゃない。『本を知り、知を司り、学者(知を必要とする人)に仕える』」。

ただ、このブログには最近たどり着けないでいる。

学者の必要とするものを探し出してきて学

者の用に供し、用が終われば元に戻すのが司書なのだとこの文を読みとったが、違っていたらご教示願う。

さて、機械に管理させる方法である。これは、カウンターと保管場所との間を、本に自動で行き来してもらう方法である。

平成17年7月7日(木)、私は茨城大学図書館のライブラリアン3人に案内されて、国際基督教大学の図書館を見学した。日本で最初に導入されたという自動化書庫の見学が目的である。もっともライブラリアン3人とも、自動化書庫を見るのは初めてだったから、この点からは私と同様の見学者であった。だから4人とも多少興奮気味であった。

自動化書庫とは簡単に言うと、コンピューター制御された立体駐車場の書籍版である。鉄骨の立体格子状の枠に、自動車を外側から操作して格納する駐車場に似ている。

何十台かの自動車の出し入れなら、人の頭脳でもできるだろうが、何十万冊もの図書の管理は人の頭では不可能である。つまり図書の管理にコンピューターが使われる立体自動図書収納書庫が、自動化書庫である。

私たちは、テクニカル・サービス・グループ主査の肩書をもつライブラリアンで、自動化書庫の導入の計画・設計から現在の管理・運営にまで携わっている方に案内されて、地下室、実際は1階だったが、に設置された図書収納庫を見学した。

ガラスの壁の向こうでコンテナに入った本が、ジャングルジムのような金属製の枠組のあいだを、音もなく素早く移動していた。速い。相当のスピードである。

主査の説明では、20万冊の図書の中から1冊を選んでカウンター(出納ステーション)までもってくるのに2、3分とのことであった。もちろん収納するときも同じくらいの時間である。ただ何冊かを連続して取り出したり収納する場合は、1冊ずつの間隔はもっと短くなる。コピー機での連続コピーを思い浮かべていただければ、理解できよう。

ふつうの開架式の図書の管理を想定した場

合、人手を食うのが返却された書籍の収納である。ライブラリアンが図書を運んで書架に収納する行程である。先にも述べたように利用者にまかせられない部分であり、あんがい先送りにされがちである。

自動化書庫では100冊の本の収納が、時間にしてわずか10分ほどだという。収納庫での運行時のスピードを見てきたばかりだったから、もっともな値だとすぐに納得できた。スピードだけではない。実は収容能力も桁違いである。書架を移動式にして収納数をふやした集密書架は、定置型の開架書架の3倍ほどの収納性があるが、自動化書庫はその1.5倍から3倍の収納力がある、と主査は『大学図書館問題研究会誌』に書いている。

人手の問題もある。集密書架は人に管理させる方法だから、導入にはそれに見合う人数が必要である。自動化書庫は100冊が10分で収納できるのである。人手は大幅に節約できる。

費用はどうか。本学図書館で今後10年間に増えるとされる書籍は40万冊である。それを収納する自動化書庫を見積もってもらったところ、3億数千万円であった。集密書架だと7万5千冊で5千5百万とかつて見積もられたことがある。この割合で40万冊分を計算すると、集密書架は3億円弱となる。集密書架の方が少し安くなる。もちろんこれらは書庫を囲む建物と必要面積は計算していない。

機械にお金をつぎ込んで人手を節約するか、人手と敷地は多少かかってもお金を節約するか、どちらかを選ぶことになる。



国際基督教大学図書館の日本ファイリング製自動化書庫

(こすぎやま・もとあき)

新入生のための茨城大学図書館入門

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これからみなさんが4年間の大学生活で大学の図書館を有効に活用していただくために「茨城大学図書館の使い方」をご紹介します。

茨城大学図書館は、水戸キャンパスの本館、日立キャンパスの工学部分館、阿見キャンパスの農学部分館、の3館から成っています。所属学部に関係なく、どのキャンパスの図書館でも利用できます。どの図書館も飲食喫煙禁止です（以下、新入生を対象に本館の使い方です）。



水戸キャンパスのほぼ中央にある図書館1階の玄関を抜けると、左にブラウジングコーナー（新聞・雑誌）、右に展示室があります。新聞は最近一週間分があります。まず、正面にある2階への階段を上がりましょう。



2階のゲートを押して入ります。ゲートは、資料の無断持ち出し防止装置になっています。帰るときに貸出の手続きをしていない本をもっているとゲートでブザーがなります。



ゲートを通して左手がカウンターです。貸出・返却だけでなく、なんでもまずこのカウンターに聞いてみましょう。



ゲートを通して正面にIT基盤センターの教育用パソコンが30台あります。教育用パソコンのIDとパスワードで利用できます。



教育用パソコンの左側に、茨城大学の蔵書を検索するためのパソコンがあります。茨城大学図書館に本・雑誌があるかを調べるためには、まずこのパソコンで検索します。この検索システムをOPAC（オーパック、Online Public Access Catalog）といいます。

なお、OPACはWebでインターネットからも利用できます。



本を借りるには、まず図書館で利用登録をする必要があります。ゲートを通してすぐ右手の記帳台にある「利用登録カード」に住所・氏名等を記入して学生証と一緒にカウンターの人に渡しましょう。



右手に進むとまず「参考図書コーナー」があります。ここには事典・辞典・辞書・ハンドブック等が集めてあります。これらは通して読む本ではなく、あるテーマについて調べ物をするときに使う「引くための」本です。これらの本は貸出をしていません。館内で利用してください。



さらに右手に進むと「開架図書」が並んでいます。(図書館では昔から利用者のみなさんが自由に本を手にとって選ぶことができる書架(書棚)を「開架」と呼んできました。茨城大学図書館では2階のこのスペースのことを開架と呼んでいます。)

開架図書は日本十進分類法 Nippon Decimal Classification (NDC) という分類で0から9までの番号順に並んでいます。おおまかに以下ようになります。

- 0 : 総記(情報等)
- 1 : 哲学、宗教
- 2 : 歴史、地理
- 3 : 社会科学(法律、経済、教育等)
- 4 : 自然科学(数学、物理、化学等)
- 5 : 技術、工学
- 6 : 産業(農業、商業等)
- 7 : 芸術、スポーツ
- 8 : 言語
- 9 : 文学

この分類のついた、本に貼ってある背ラベルを「請求記号」といいます。



「開架図書」の先に、「教養教育図書コーナー」があります。ここは教養科目の授業に役に立つ参考書を集めたコーナーです。このコーナーも0から9までの分類で並んでいます。青い丸シールが目印です。岩波新書・講談社学術文庫・Graded Readers(授業で指示される英語の読み物)はここにあります。



カウンターの奥には「閉架書庫」があります。こちらは旧館1層から4層、新館1階から3階に、本・製本済雑誌のバックナンバー

があります。カウンターの入庫者名簿に記入して入庫してください。

.....

- 開館日
祝日、振替休日、創立記念日、年末年始、休業期間中の土日は閉館です。
- 開館時間
授業がある期間は、月曜日から金曜日までは午前9時から午後8時まで、土日は午前9時半から午後5時半まで開いています。
休業期間中は、月曜日から金曜日までは午前9時から午後5時まで開いています。土日は閉館です。
- 貸出冊数と貸出期間
3年生までは、全部で5冊まで、14日間借りられます。同時に手元に借りておけるのが5冊までです。
- 貸出
利用登録が済んでいる人は、本と学生証をカウンターに出すと本を借りることができます。特に、外側にバーコードが貼ってある本(開架図書と教養教育コーナーのほとんどの本)は、自動貸出機を使って自分で貸出処理をすることができますので自動貸出機をぜひ活用してください。
- 返却
カウンターの所定の位置に置いてください。閉館している時は玄関脇の「ブックポスト」にいらしてください。
- 予約
他の人が借りている本の貸出を予約することができます。カウンターにその旨申し出てください。返却されたら、図書館

1階ブラウジングコーナーにその旨掲示しますのでカウンターに借りにきてください。

● リクエスト

希望の本が図書館にない場合、図書館に図書購入のリクエストをすることができます。リクエスト用紙に記入してカウンターに提出してください。リクエストすればすべて購入されるわけではありませんが、購入が決定し利用可能となったら1階ブラウジングコーナーに掲示しますので、リクエストした本を借りたい旨カウンターに伝えて借りてください。

● 新聞検索（朝日、読売）

2階OPACコーナー隣のパソコンで、インターネット経由で朝日と読売の新聞記事が検索できます。利用簿に記入の上、学習上新聞記事が必要なおきにご利用ください。

● コピー機

2階カウンター脇にコピー機が2台あります。図書館内の資料のコピーをとりたい時に、申込書に記入の上、利用してください。資料には著作権があります。掲示されているように著作権を遵守の上利用してください。

● 共同学習室

1階ブラウジングコーナーの先にある部屋でグループ学習できます。2階カウンターで使用したい時間を予約して、その時間に鍵を受け取って利用してください。

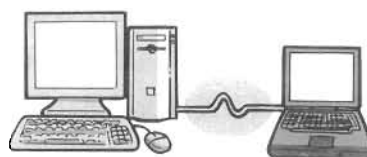
- 茨城大学図書館に本・雑誌がない場合
茨城大学図書館に利用したい本・雑誌がない場合は、分館や他の大学等から、本の取り寄せ・雑誌論文コピーの取り寄せができます。送料等実費がかかります。

また、茨城県立図書館から本の取り寄せができます。カウンター脇にある申込書に記入してカウンターに提出してください。届いたら2階掲示板でお知らせします。

● 利用者の声

図書館に要望したいこと等ありましたら「意見箱」の用紙に記入の上、箱にいらしてください。回答は1階ブラウジングコーナーに掲示します。

- 図書館ではホームページを開設しています。<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>様々なデータベース等ご利用ください。



第91回 全国図書館大会

図書館専門員 山本和雄

1. 全国図書館大会とは

平成17年10月26日から28日にかけて、「平成17年度第91回 全国図書館大会 茨城大会」が水戸市にて開催されました。「全国図書館大会」とは、日本図書館協会が各県の図書館協会等と共催して毎年10月末に全国を巡回しながら開催している大会で、日本全国から県立や市立などの公共図書館、国公立の大学・短大・高専図書館、高校などの学校図書館、企業や研究所などの専門図書館などに勤める職員のほか、図書館学教育の研究者や図書館行政に関わる政府関係者、出版社や図書館関連用品企業などの関係者が、例年2,000人弱参集して3日間にわたり講演会やパネルディスカッション等を通じて交流する、国内の図書館関連の集会では最も大規模なものです。茨城県での開催は、明治44年の第6回水戸大会の開催以来、94年ぶりの開催となります。

2. 茨城大会

今回の茨城大会は、大会テーマとして「大陸の国から図書館の未来を探る：読書の力、図書館の力が社会を変える」を掲げ、日本図書館協会、茨城県、水戸市、茨城県図書館協会ほかの主催により、大会会長は茨城県知事、副会長は水戸市長と日本図書館協会の理事長が務めたほか、文部科学省、茨城県市長会、茨城県町村会、茨城新聞社、NHK茨城放送局ほかの後援を受け、約1,800人の参加者を得て開催されました。事務局は茨城県立図書館が務めましたが、本学図書館長は茨城県図書館協会の副会長（会長は茨城県立図書館長）であるとともに、同協会大学図書館部会の会長を務めているため、本学図書館も主催者の一員として大会運営に参加しました。

3. 大学・短大・高専分科会

例年、大会2日目は分科会形式を採っており、茨城大会においては12の分科会を開催する中で第2分科会として「大学・短大・高専分科会」が計画されました。この分科会は、茨城県内の国公立大学短大高専図書館及び茨城県立図書館から選出された10名の委員と共に本学図書館専門員が分科会委員長を務めました。当日は茨城県庁に会場を借りて総勢31名のスタッフにより運営し、全国の国公立大学短大高専図書館の職員及び図書館関連機関・業界から約180名の参加者を得ました。



大学・短大・高専分科会の様子

4. 存在感のある図書館を目指して

茨城大会での大学・短大・高専分科会のテーマは、「存在感のある図書館を目指して」です。

近年、高等教育機関に附属する図書館において、さまざまな課題対応が求められています。まず社会情勢の最も大きな変化としては、情報化への対応です。電子ジャーナルの導入のほか、研究組織としての知的アイデンティティを示す機関リポジトリの構築が昨今の話題となっています。大学情勢の変化としては

アメリカがひとつの先例となりますが、大学進学率が上昇するなかで、従来の研究者養成教育に加えて民主主義の根幹をなす「自ら調べ考えまとめる能力を有する責任ある市民」を育てる生涯学習機能が大学にも求められることとなり、大学図書館は情報リテラシー教育機関として位置付けられるようになりました。わが国においても、2007年に予測される大学全入時代の到来という欧米にも前例のないほどの大学大衆化と、最近の学力低下に対する接続教育の必要から、大学図書館の教育機能の一層の展開が求められています。また、大学改革の中で、社会や地域との相関における客観的な生産性もまた業務実績として求められるようになってきました。

これらの課題について分科会準備委員会で検討の結果、根底に共通して流れているのは「昨今の競争的な環境において、大学等の親組織のなかで図書館はどのように存在をアピールしていけるのか」といった新たな問題意識ではないか、という見解に至りました。

5. 講演

分科会では、上記のような問題意識を展開するかたちでさまざまなトピックを取り上げました。

永田治樹先生（筑波大学教授）による基調講演「存在感のある図書館像について」では、分科会のテーマである「存在感」を中心に状況を整理し、分科会全体の方向付けが行われました。大学等で図書館組織と学内情報施設が統合された事例を見ると、統合に際して新たなサービスの提案がなされていますが、利用者側には「図書館」というサービスブランドの受容理解に関して大きな変遷はなかったようです。また、市場一般の事例においては、競争力のある企業は時代を先取りする革新を重ねることによって強固なブランドイメージを維持しています。これらのことから、激しく変化する社会状況に合わせてサービスを更新していくことは必要ですが、その際に図書

館の存在感を高めるためには「図書館」というブランドを意識しながらサービスを展開していくことが提案されました。

基調講演に続いて富田健市氏（筑波大学附属図書館課長）による「機関リポジトリの役割」の発表があり、午後の部では栗山正光先生（常磐大学助教授）による「情報リテラシー教育」と磯田道史先生（本学助教授）による「地域との連携」の2件の発表がありました。



「地域との連携」の磯田先生（本学人文学部）

磯田先生の発表では、古文書という大学が所蔵する学術文化資料の中でも重要な意味を持つ資料の活用展開について、豊富なアイデアと活動状況が具体的に示され、会場からも参加者が抱えている具体的な問題事例について意見を求める質問が相次ぎました。

最後に、基調講演と発表の内容全体を受けてパネルディスカッションが行われ、分科会参加者とパネラーとの間で活発に意見が交換され、分科会テーマに関する理解を深めると共に、来年の大会に向けた一層の展開を期待して盛会のうちに閉会となりました。

（やまもと・かずお）

韓国・忠北大学校図書館を訪問して

学術情報係 矢内 美どり

<はじめに>

2004年11月、茨城大学は韓国の忠北大学校(충북대학교)と職員交流研修協定を締結しました。この研修は両大学の職員が相手の大学に約1ヶ月間滞在し、業務の視察・情報交換や、職員間の交流を行うというものです。

茨城大学では2005年1月、忠北大学校図書館の金封希さんを迎え、第1回研修を実施しました。(茨城大学図書館報No.14参照)

そして2005年8月、私が茨城大学からの派遣者第1号として研修を受けた次第です。

1ヶ月の研修中、ソウル大学中央図書館や公共図書館も訪問しましたが、本稿では忠北大学校図書館にテーマを絞って報告します。

<忠北大学校について>

忠北大学校は、韓国に24ある国立大学のうちの1校で、1963年に開学しました。

キャンパスは韓国中部の忠清北道・清州市(道庁所在地、人口約60万人)にあります。

清州市は、ソウルから高速道路で約3時間の距離にある街です。大学周辺は飲食店が多く、賑やかな印象を受けました。

職員の交流研修に先立ち、茨城大学との学生間交流が1991年に始まっており、現在も毎年、研修旅行や交換留学が行われています。



大学校本部棟



大学の周辺



清州市の繁華街

～忠北大学校と茨城大学の比較～

	忠北大	茨大
学部数 (内訳)	13(人文,教育,法, 社会科学,経済, 人間環境,自然科学, 工,電子工,農, 薬,獣医,医)	5(人文,教育, 理,工, 農)
学部生数	21,145名	7,561名
教職員数	1,966名	948名
総面積	990,000㎡	376,350㎡

(webサイト・利用案内等から作成)

<忠北大学校中央図書館について>



忠北大学校中央図書館・外観

～忠北大学校と茨城大学図書館本館の比較～

	忠北大	茨大本館
職員数	37	27
竣工年	1985年	1971年
総面積	13,753㎡	5,670㎡
図書所蔵数(*注)	631,457冊	696,152冊
()内…洋書	(139,037)	(187,450)
雑誌所蔵数(*注)	822誌	8,519誌
()内…洋雑誌	(563)	(2,122)

(webサイト・利用案内等から作成)

(*注)忠北大は研究所蔵資料の数を含まない

<忠北大学校中央図書館の特色>

特に印象的だった3点を紹介します。

第一に、「人文科学」・「社会科学」・「自然科学」・「言語文学」という主題別に資料室が分かれていた点です。各室ごとに職員がおり、レファレンスも可能な体制となっていました。

また、「学術論文室」という、学位論文専用の資料室もありました。近年では学位論文の電子化も行っているとのことでした。

第二に、学生の読書を推進するための諸活動です。具体的には、読書量の多い学生への表彰、推薦図書の選定等です。

茨城大学では、2005年に教育学部の先生方により「お薦めの本」という冊子が作成されましたが、図書館では残念ながら学生の読書推進活動を特に行っていません。今後ぜひ検討しなくてはとの思いを強くしました。

第三に、館内の「見せ方」の工夫です。

まず、スクールカラーで統一されたサインシステムにより、館内が整然としていました。

また、図書のラベルを分類別に色分けするという配架ミスを防ぐ工夫がされていました。

あと、地震の少ない国情からか、随所に鉢植が置いてあり、館内に色を添えていました。



雑誌資料室



主題別資料室

<忠北大学校図書館・分館について>

医科図書館・法科図書館・蛍雪館の3分館があり、そのうちの医科・法科は名前のとおり専門分野の資料を集めた図書館でした。

蛍雪館は全4階のうち、1階の新聞ブラウジングコーナーと事務室以外は全て学習室の建物です。座席の予約システムが設置されており、利用の多さを物語っています。

館名は「蛍雪の功」に由来するらしく、同じ漢字文化圏であることを実感しました。



蛍雪館・外観

<おわりに>

今回の研修を通して、茨城大学図書館はどうあるべきか、随分と考えさせられました。課題は多いと諦めず、改善して行きたいです。

最後になりましたが、研修に際しお世話になった日韓の皆様にお礼申し上げます。정말로 감사합니다. (大変ありがとうございます)

(やない・みどり)

図書館だより

●本 館

○電子ジャーナル経費の共通化

17年度に共通経費化された電子ジャーナル経費により16年度と同一の電子ジャーナルを購読しています。また、電子ジャーナルのリンクページに新たに検索機能を持たせ、より使いやすくなりました。

○IC学生証による貸出開始

17年度より学生証及び身分証がICカード化されたことにより、分館も含め貸出は従来のバーコードからIC読み取りに変更しました。自動貸出機も同様にIC読み取りとなりました。

○全国図書館大会茨城大会

平成17年度第91回全国図書館大会茨城大会（日本図書館協会他主催）が10月26日（水）から3日間の日程で茨城県立県民文化センター、茨城県庁講堂等で約1,800名の参加により開催されました。

2日目の大学・短大・高専分科会では、約180名の参加者により「存在感のある図書館を目指して」をテーマに、基調講演・発表・パネルディスカッションが行われ、機関リポジトリのほか、情報リテラシー教育、地域との連携など図書館の抱える現代的な課題が取り上げられました。磯田道史本学人文学部助教授の発表では、古文書という蔵書構成の中で重要な意味を持つ資料の活用展開について、豊富なアイデアと活動状況が具体的に示され、会場からも参加者が抱えている具体的な事例について意見を求める質問が相次ぎました。

パネルディスカッションでは、「大学図書館」という歴史と伝統のある「ブランド」の価値を維持し高めていくためにも、電子的サービスを始めとする新たなサービスの展開と付加価値付与に取り組んでいく必要性が再認識され、分科会のまとめとなりました。

○茨大はお宝がいっぱい！

平成17年11月30日(水)に地域連携シンポジウム「茨大はお宝がいっぱい！」の開催に合わせて特別展示を実施しました。展示は、人文学部及び五浦美術文化研究所との連携協力によって、図書館の古文書のほか五浦研究所の屏風図なども展示され、シンポジウム終了後には人文学部と五浦研究所の教員によるギャラリートークも行われ、好評を博しました。



写真提供人文学部



●工学部分館

○展示コーナーの設置

平成18年1月より、ブラウジングコーナーとマルチメディアコーナーの一部に「展示コーナー」を設置しましたので、ご利用ください。研究・学習活動、さらにサークル活動などの成果発表の場として、本学の学生・教職員の利用をお待ちしています。

○アンケートの実施

平成17年12月、分館図書委員会が、分館の利用環境の改善に役立てるため、日立地区の院生を含む全学生にアンケートを行いました。これにより学生の情報要求に対する意向を調査し、今後の分館の整備に活かしていきたいと思っています。現在取りまとめ作業中です。

○土曜日の開館時間変更

平成18年度より、土曜日の開館時間の変更を行い、利用しやすい時間帯に開館することとしました。新しい時間は以下のとおりです。

現行開館時間 8:50～17:20

新開館時間 10:20～18:50

●農学部分館

○学習環境の充実のために

土曜日は、午後の利用者が多いことから、平成17年4月より16時閉館を1時間遅らせて17時へ変更しました。

利用者が多い試験期間中は、日曜日を開館しました。また、閲覧機の不足を解消するために、棟続きの講義棟の教室を図書館の「学習室」として運用しました。試験勉強を応援することができました。

土曜開館時間 11:00～17:00

○資料を利用しやすくするために

雑誌の配架の順番を誌名順からラベル順に変更しました。簡単なラベル表示により配架場所がわかりやすくなりました。

○新しい図書館の役割を求めて

国立情報学研究所（NII）と学協会、大学図書館は、研究者による健全な学術コミュニケーションへの変革をめざしています。図書館では講演会「UniBio Pressの挑戦－学会の新しいビジネスモデル」を平成17年7月20日（水）に開催し、教員、学生へ学協会の新しいビジネスモデルを紹介しました。59名の参加があり、好評のうちに終了しました。



平成17年 (2005年) 1月～12月の活動記録

- | | |
|--|--|
| 1. 11～2. 7 忠北大学校図書館職員研修生
実習受入 (1. 20～1. 21 農学部分館
実習、1. 28 工学部分館実習) | 立大学図書館協会関東地区協会) |
| 2. 3 H16年度第4回図書館運営委員会 | 7. 24 農学部分館試験期間の日曜開館実施 |
| 2. 9～2. 23 本館蔵書点検 | 8. 1～11. 30 本館図書目録遡及入力 |
| 3. 4 H16年度第8回農学部分館図書委員会 | 8. 1～10. 27 工学部分館図書目録遡及入力
実施 |
| 3. 8 H16年度第5回図書館運営委員会 | 8. 29～9. 20 本館蔵書点検 |
| 3. 31 茨城大学図書館報No. 14発行 | 9. 5～9. 9 農学部分館雑誌移動 |
| 4. 1 農学部分館グループ学習室運用開始 | 9. 21 H17年度第2回工学部分館図書委員会 |
| 4. 5～4. 11 農学部分館新2年生図書館ガ
イダンス | 9. 22 H17年度第5回農学部分館図書委員会 |
| 4. 9 農学部分館土曜開館時間変更 | 9. 26～9. 30 本館古文書整理作業 |
| 4. 15 H17年度第1回農学部分館図書委員会 | 10. 11～10. 12 農学部分館図書館ガイダンス |
| 4. 19～6. 27 本館新入生図書館ガイダンス
(35回) (主題別ゼミナール関連) | 10. 17～11. 11 本館図書館スキルアップセミ
ナー (30回) |
| 4. 21 関東地区国立大学図書館協会総会 | 10. 24～11. 1 農学部分館雑誌移動 |
| 5. 13 H17年度第2回農学部分館図書委員会 | 10. 26～10. 28 第91回全国図書館大会茨城大
会 |
| 5. 23～5. 24 農学部分館図書館ガイダンス | 10. 28 H17年度第6回農学部分館図書委員
会 |
| 5. 26 H17年度第1回図書館運営委員会 | 11. 1～11. 16 農学部分館蔵書点検 |
| 5. 31 H17年度第3回農学部分館図書委員会 | 11. 12 工学部分館工学部オープンキャンパ
スに参加 |
| 6. 9 H17年度第1回工学部分館図書委員会 | 11. 30 本館地域連携シンポジウム関連企画
特別展示「茨大はお宝がいっぱい！」 |
| 6. 24 H17年度第4回農学部分館図書委員会 | 12. 1～12. 2 農学部分館図書館ガイダンス |
| 6. 27～6. 28 農学部分館図書館ガイダンス | 12. 5～12. 16 工学部分館蔵書点検実施 |
| 7. 12 H17年度第2回図書館運営委員会 | 12. 6 本館 ScienceDirect 講習会 |
| 7. 15 H17年度第1回本館図書委員会 | 12. 7 H17年度第3回工学部分館図書委員会 |
| 7. 20 図書館主催講演会「UniBio Pressの
挑戦ー学会の新しいビジネスモデル」
(共催：国立情報学研究所、後援：国 | H15年度第1回電子図書館WG |

茨城大学図書館報 No. 15 平成18年 (2006年) 3月

編集 図書館報編集委員会

発行 茨城大学図書館 〒310-8512 水戸市文京2-1-1

Tel 029-228-8073 (図書館企画係) Fax 029-228-8078

<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>